

ダンパーのメンテに特化

防災の範疇拡大で需要開拓も

藪根メンテナンス



藪根 俊夫社長

弱冠19歳より関東でのシニアNo.1を誇るダンパーメーカーの三功工業所（三ツ橋一弘社長、東京都大田区）で保守・サービスは13年間身に付け、その後はダクトメーカーの東京アスカ技研においてダクト工事を経験し、外注にてダンパーメンテナンスを請け負うといった業界経験20年超のスキルをもって一昨年の2023年8月に起業した藪根メンテナンス（代表取締役 瀬川敬永氏、取締役社長 藪根俊夫氏、本社・奈良

県生駒郡三郷町立野北2-9-7、東京支社・千葉県木更津氏高柳2-5-16）は防火、防災ダンパーのメンテナンスに特化した事業を展開する。

代表者の瀬川氏と藪根氏は共に三功工業所で腕を磨いた同僚で、瀬川代表が経営するガス（LPG）事業ならびにハウスクリーニング事業を行う瀬川商事（奈良県生駒郡）が出資元となり藪根メンテナンスを誕生させた。

専ら、関東圏を中心に近隣への事業展開は東京支社に在籍の藪根社長が担い、関西圏は協力業者と共に瀬川商事がバックアップ体制を取るという構図だ。

この度の起業について藪根俊夫社長は「三功工業所時代に自社製品のメンテナ

ンスを担当していたなかで、実際は交換をしたいが予算的に難しく何とか修理で延命措置が出来ないかといったユーザーの声に触れるうちに、これをひとつの事業として成立させていきたいと強く思うようになった。ひとつはユーザーが仮にこうした要請をする場合、防災関連企業などを通してダクトメーカーなどへ依頼し、さらにそこから修理業務を担う事業者を探すといった煩雑さがある。同時に交換となった場合は接続するダクトをバラして、設置し直すといった大掛かりな工事となり、費用も相当高むことからなかなか積極的な手が出せないといったユーザー側の事情もある。こうした多少、ニッチではあるがユーザーの困りごとを解決できる当社の事業は今後、益々需要が拡大できると期待している」と話す。

現在は三功工業所の委託



ダンパーメンテナンスの作業風景

は話す。

事業として同社製品のメンテナンスを担当する一方、防災関連機器メーカーなどへも積極的にアプローチを図り直需での需要開発へも乗り出す。東京営業所所在の千葉県木更津市は東京湾を横断する海底トンネルの東京湾アクアラインを利用すれば対岸の川崎市までの乗り入れは僅か15分といった地の利の良さがあり、首都圏域での事業展開について障りは無い。

一方で従来はダクト同様に一度設置したら、次のビ

ル解体まで交換は無いとされていたダンパーは、故障時に初めて交換といったニーズが生まれると、潮目は変わりつつあると藪根社長

に上る。なかでも設置から経年を迎えたものを中心に拾いこみ点検、修理を施していくだけでも十分、年間を通して需要量はある」とし起業時に打ち立てた売上目標は早くも上回る実績となっているとした。

他方で今後については『人命に関わる機器』であることの認知を改めて広げていくこと。メーカーに依って製品の各種機構が異なることから、アドバイスを含めたサービス営業に注力していくと共に、定期的なメンテナンスの必要性や防災機器として手掛ける製品群の範疇を広げていくことで需要の創出を図っていきたいとしている。

藪根メンテナンスではメンテナンスによりダンパーを平永久的に利用できるように生まれ変わらせる事ができ、「私たちに直せないダンパーはありません」と訴えかける。同社の事業領域はダンパーの定期メンテナンスに留まらず、修理交換工事・部品交換。さらにはダンパー各部品・部材の卸売も行う。